

# ヤマビルに吸血されているのは誰？

## ～ DNA 分析による種判別 ～

宮崎大学 教育学部 西田 伸

ヤマビル（学名：*Haemadipsa zeylanica japonica*）は吸血性の陸棲ヒルの仲間です。知らない間に吸血されて、出血がなかなか止まらない経験をされた方も少なくないのではないかと思います（私も昨年初めて吸血被害にあいました…）。このヤマビル、全国的に個体数が増加し、被害件数も大きくなっています。綾町も増えている地域の一つです。ではヤマビルはどのような動物の血を吸っているのでしょうか？そこで、てるはの森の会と共同で、ヤマビルに吸血されている動物の種判別！を行うことにしました。その手段は…DNA 解析です！ヤマビルは体全体がほぼ消化器で、一度吸血すると、その血液をゆっくりと消化します。吸血してから最低でも4ヶ月程度はヤマビルの体の中に吸血した血液が残存するそうです。この残存血液の中にあるDNAを調べます。DNAは4種類の文字（塩基：A、C、G、C）を組合せた文字列で、この文字列が生命の設計図（遺伝子）として使われています。DNAの文字列は、進化の歴史の中で、生物種

ごとに少しずつ異なっていて、このDNA配列の文字を比較することで、動物種を区別することができます。

綾町において、2017年7月に採取されたヤマビル62個体の解析に成功しました。解析した領域はミトコンドリアDNA・12s rRNA(約180塩基)です。結果は意外なものでした(図1)。2017年、綾町において最も吸血されていたのはヒト(66.7%)だったのです！ヒト以外では、ニホンジカ(25.4%)、アナグマ(3.2%)、イノシシ(1.6%)、テン(1.6%)、イヌ(1.6%)が検出されました。他の地域の例ではシカ・イノシシや、カモシカが優占していて、ヒトの被害は3%～17%と高くありません。綾町ではユネスコエコパーク登録と合わせて、観光客数が増加したことも要因の一つかもしれません。まだ1年のみの調査ですので、2018年も引き続きDNA解析を行い、傾向を調査する予定です。

(にしだ しん・宮崎市)

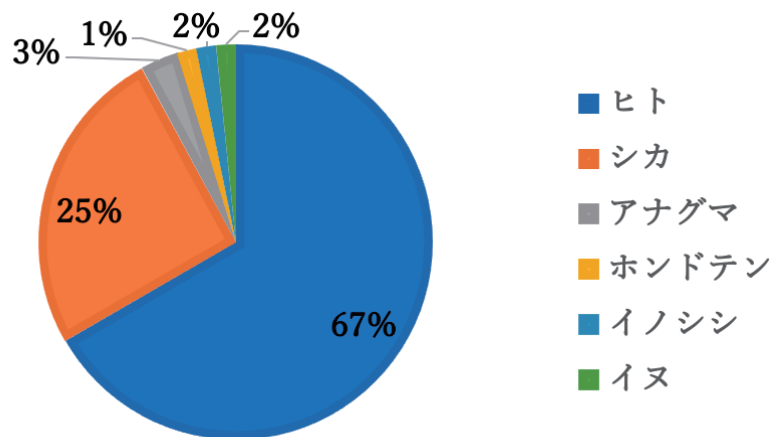


図1 DNA 解析でヤマビルから検出された吸血動物種とその割合